【速報】かながわPay（かなトクペイ）がスタートします！

神奈川県内のお買い物でポイントが戻ってくる大人気企画が、名前を「かながわトクトクキャンペーン！（愛称：かなトク！）」に変え、いよいよ始まります。

💡 ココが変わった！3つのポイント

① **専用アプリは不要！**：お店のQRコードを、普段お使いのスマホ決済アプリでそのまま読み取るだけでOKになりました。

② **「PayPay」「メルペイ」も対象に！**：全6社（PayPay、楽天ペイ、d払い、auPAY、メルペイ、AEON Pay）が使えます。

③ **お店に応じて最大10%〜20%還元！**：中小店舗や個人商店なら20%、大手チェーン店なら10%が還元されます。

▲詳細はこちらから！

増永あやこ市政報告書

あさひ・つなぐ・レポート

2026年 夏号 vol.009

【活動報告】市会第二回定例会にて一般質問に登壇 ～地域の皆様の声をカタチに～

5月20日の一般質問の様子

さわやかな初夏の風が心地よい季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私事ですが、昨年誕生した長男がこの４月から保育園に通い始めました。新しい生活がなんとか軌道に乗ってきたものの、突然風邪をひいたり、熱を出したりと、初めての育児に戸惑うこともありますが、家族で支え合いながら日々なんとか取り組んでいます。朝の駅頭活動や地域のイベントに駆けつける傍ら、自ら当事者となり、日々奮闘する中で、改めて子育て家庭のリアルな悩みや、地域で支え合う仕組みの大切さを肌で感じる毎日です。

こうした一人の母親としての実感や、日頃から皆様から寄せられている切実な「生の声」をしっかりと市政へ届けるべく、私は５月20日に行われた第二回市会定例会にて、一般質問の教壇に登壇いたしました。

今回は、市民の皆様の暮らしに直結する19の重要テーマについて、山中市長や教育長へ具体的な現状を突きつけ、前向きな改善に向けた質問と要望を真っ直ぐに届けてまいりました。

次ページからは、各項目において具体的な質問と、その回答、進捗についてお伝えしたいと思います。是非ご一読ください！

【ミニ解説】市会の「一般質問」とは？

「一般質問」とは、本会議にて議員が個人の立場から、**市の行政全般や地域課題、将来のビジョンについて市長や教育長などの執行部に、質問・提案を行う手続き**です。議会の中でも特に注目される重要な活動の一つです。

会派を代表して大局的な施政方針などを質す「代表質問」とは異なり、**議員が一人の政治家として、日頃の調査や市民の皆様から寄せられた切実な「生の声」を直接市政に反映させる場となるため、議員にとっては、これまでの活動を発揮できる機会です。**

特定の議案に限らず、子育て、福祉、教育、財政など幅広いテーマを一括して取り上げられるのが特徴で、身近な課題の改善を促すだけでなく、行政のチェックや新たな政策提案を行う目的があります。本会議の様子は市民に公開（傍聴やネット配信）されており、市がどのような方針で動いているかを知る大切な機会です。

活動トピック①

令和8年第2回市会定例会 代表質問（抜粋）

1. 誰もが安心して利用できる「子育て・医療的ケア児支援」の拡充

1.産後ケア（宿泊型ショートステイ）の手続き簡素化

- 心身の不調や育児不安を抱えるお母さん方の負担となっている、区役所での事前面接や過度なばらつきについて運用の見直しを指摘。国が示すガイドラインに立ち返り、申請手続きを可能な限り簡素化すべきだと質した結果、市長より「安全面に配慮しつつ、より利用しやすい仕組みづくりを検討する」との明確な回答を得ました。

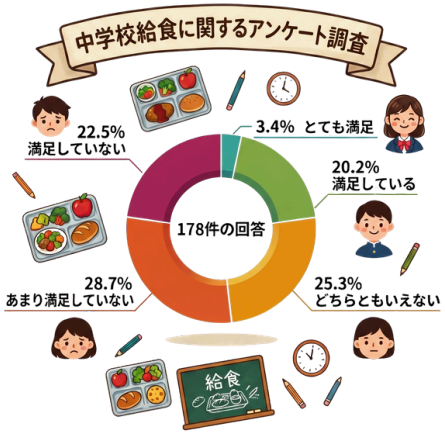
2. 医療的ケア児・者のレスパイト支援の格差是正

- 本市が実施するモデル事業の「年間24時間・1回2時間」という現行枠が、医療的ケア児を育てる保護者にとって事実上、自分が倒れた時の「お守り」となってしまっており活用できないという切実な実態を訴えました。年間最大288時間を確保する東京23区などの先進事例を真摯に学ぶべきと訴えました。市側からは「当事者に寄り添った支援のさらなる充実を図るため、他都市の事例を参考に必要な対応を検討する」との方針を引き出しました。

2. 独自アンケート実施「中学校全員給食」の改善

本年4月から開始された中学校全員給食について、地元の中学生から要望を受け、独自のアンケート調査を実施しました。結果178名からの意見をいただき、一般質問にて市長、教育長に質問をしました。

子ども達からは「何故始まったかわからない」「**冷たくて美味しくない。大人も食べて実感してほしい**」というネガティブな声が多く、これを受け、教育長からは、栄養士の学校訪問による**直接の聞き取りや、各学校の残食率の把握に努める**と答弁がありました。さらに、生徒の意見をより効果的に把握し、満足度を高める改善サイクルを継続的に検証・構築していくと答弁があり、今後の改善に向けて取り組みを推進するという約束をいただきました。



3.教育現場の格差是正と、部活動の地域移行の推進

1.インクルーシブ教育の地域展開

- 私の地元・旭区の若葉台地区で進む、小・中・特別支援学校と大学が連携したモデル事業が国内外から高く評価されていることを受け、この知見と検証結果を基に、学校ごとの温度感や教員の知識格差に関わらず、他地域へも力強く展開していく方針を教育長から頂きました。

2. 部活動の地域移行の推進

- 少子化に伴う構造的課題や現場の予算不足を解消し、子どもたちのスポーツ・文化活動の機会を持続可能な形で残すため、令和13年度までの改革実行期間における実効性のある具体的なスケジュールの明示と、国・市による責任ある予算措置・体制整備を強く求めました。

活動トピック②

旭区未来創造フォーラム開催～GREEN×EXPO2027～

5月24日、自民党旭区連合支部主催の「旭区未来創造フォーラム」を二俣川サンハートにて開催いたしました！いよいよ開催まで1年を切った「GREEN EXPO 2027（国際園芸博覧会）」をテーマに、博覧会協会から小池次長をお招きし、万博の詳しい見どころや最新情報について、旭区の皆様にお届けしました。本紙では、当日好評だった輸送計画の最新情報をお伝えします！

【日常生活への影響は？】周辺住民の生活を守る！交通・混雑対策

～基本コンセプト：一般車を生活道路に迷い込ませない！～

大規模なイベントで一番気になるのが、周辺道路の混雑です。GREEN×EXPO 2027では、周辺住民の皆さんの生活に配慮した徹底的な混雑・抜け道対策が講じられます。

- **メインルートを徹底誘導**：マイカーで来場する場合、主に「八王子街道」と「環状4号線」の2箇所を起点とするゲートから駐車場へ直接誘導します。広域の幹線道路沿いから分かりやすい誘導看板を徹底配置することで、生活道路に迷い込む車を減らす工夫がなされます。
- **生活道路の「抜け道（ショートカット）」をブロック**：周辺の狭い生活道路が抜け道に利用されないよう、主要な箇所には立て看板や案内員による区切りが設けられる予定です。一般の来場車両が入り込まないようしっかりと対策をし、近隣住民の方の安心に繋げます。

【どうやって行く？】会場までのアクセス＆気になる来場者数の予測

～おすすめのアクセス方法は自転車＆徒歩～

今回の計画（来場者輸送実施計画 第2版）では、会期中192日間の来場者数が予測されており、時期や平日or土日祝にもよりますが、**1日あたり約5万人～10.5万人もの人が訪れる見込み**です。地元の皆様には、会場までただ移動するだけでなく、行くまでの道のりもイベントの一部として楽しめる、**徒歩や自転車での来場がおすすめ**です。

活動トピック②

【支援策まとめ】物価高騰から市民の生活を守る

長引く物価高騰に対し、横浜市は、各種支援事業を順次実施していきます。

1. すべての市民・家計への直接支援

- **市民全員（19歳以上）への5,000円分給付**
  - 対象： 2026年1月時点で市内に在住する19歳以上の市民
  - 内容： 1人あたり5,000円相当の電子クーポンまたは商品券を給付
  - 時期： 2026年4月下旬以降、順次開始予定
- **商店街プレミアム付商品券の発行**
  - 市内の商店街で利用可能な、上乗せ（プレミアム）付きの電子商品券を発行し、地元での買い物を支援します。継続施策ではありますが、昨年より予算額が拡充されました。
  - 令和7年度も、鶴ヶ峰商店街協同組合、希望が丘商店会等で実施されています。

2. 子育て世帯への重点支援

- **物価高対応子育て応援手当金**
  - 対象： 0歳から高校生年代までの子ども
  - 給付額： 子ども1人あたり 2万円
  - 支給日： 2026年3月10日より順次開始
  - 方法： 原則、児童手当の受給口座へ振り込み※申請不要
- **学校給食費の負担軽減**
  - 食材費の高騰分を市が補填することで、保護者負担を増やさず質の高い給食を維持。実質的負担軽減を継続します。

3. 低所得世帯への対応

- **【特例】証明書発行手数料の無料化**
  - 給付金申請に必要となる「課税（非課税）証明書」の発行手数料を、臨時措置として無料化しています。

活動トピック③

【報告】横浜市産後ケア事業が大きく拡充・改善されます！

これまで、多くの切実な声をいただいてきた「産後ケア事業」について、令和8年度から要望が反映され、制度改善が実現することとなりました。

1．産後ケア、妊娠中から申請が可能に

これまでは、出産後しか申請手続きができず、心身が最も辛い産後1か月の時期に、新生児を連れて区役所へ外出せねばならない等、高いハードルがありました。

▶改善点： **出産前から申請をすることができるようになります。**そのため、出産後スムーズに産後ケアを受けられる体制が整います。また、ショートステイ（宿泊型）の面談についても妊娠時から可能となるため、利用ハードルが下がります。

2．デイケア（日帰り）の利用要件の緩和

「育児不安がある場合に限定」といった従来の要件を撤廃するよう求めてきました。

▶改善点： **デイケア（日帰り型）については育児不安の有無にかかわらず利用可能になります**（要件撤廃）。利用ハードルが下がり、産後うつの抑制やお母さんの心と体のケアにも期待できます。

3．「パマトコ」からオンライン申請が可能に！

これまでは審査を面談でることが前提、区役所での対面申請が基本だったためハードル有。

▶改善点： 子育て支援アプリ「パマトコ」を使い、**すべての産後ケア事業が妊娠中からオンライン申請可能になります。**
※ただしショートステイ（宿泊型）については面談が必要です（出産前に実施可）

ショートステイ（宿泊型）の改善等、まだまだ課題はありますが、今後より産後ケアを多くの妊産婦の方々が利用しやすくなるよう、取り組みを加速させていきたいと思います。

増永あやこ市政報告書

あさひ・つなぐ・レポート

2026年 春号 vol.008

【活動報告】令和8年度予算編成と育児を経験して見えた景色

息子とこども自然公園にて

麗らかな春の光が街を包み、命の息吹を感じる季節となりました。日頃より温かなご支援とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年の出産から半年が経ちました。初めての育児に日々奮闘する中、すくすくと育つ我が子の寝顔や、日に日に増える表情に、親としての喜びと同時にこの小さな命が生きる未来を守る責任の重さを肌身に染みて感じております。

この3月より、ようやく朝の駅頭活動を本格的に再開することができました。「おめでとう」「頑張ってね」と温かいお声をかけていただき、ありがとうございます。改めて地域の皆さまとの再会は、何物にも代えがたい私の原動力だと実感しています。暫くの間直接ご挨拶に伺えなかった分、また改めて皆さまお一人おひとりのもとへ足を運び、地域の生の声をお聞きしたいと決意を新たにしています。

現在、横浜市では令和8年度に向けた予算編成が大詰めを迎えています。

今年度の一般会計予算（税金をどう使うかの計画）は2兆993億円（対前年比+5.8%）、市民1人あたり予算総額は、およそ55万6892円です。これだけの大きなお金をお預かりし、皆さんの生活にどう還元していくかを考え、議論することは大変重要なことです。この議論をいかに深め、市政に訴えられるかが、議員として一番の大仕事だと思っています。

私自身、夜泣きに悩み、仕事と育児の両立に葛藤する日々があるからこそ、市民の皆さまが抱える切実な悩みや、暮らしの中のあと一歩の支援の必要性が、今まで以上に鮮明に見えるようになったと感じます。一人の母親としての視点と、一人の議員として横浜市全体の視座、その両輪で、市民の皆さまの暮らしに徹底して寄り添っていきたいと思っています。

今号は主に、令和8年度予算案に対する市政トピックをまとめました。皆さまからのご意見・ご要望を政策へと繋げるべく、活動を進めてきました。ご一読いただければ幸いです。

イベント情報～希望が丘商店会「春フェス」出店します！

今年も「春フェス」が開催されます！豪華景品が当たる無料大抽選会や名物カートレース等、大人も子どもも楽しめる企画が満載です。当日、増永あやこ事務所も出店予定。商店街の活気と笑顔に触れに、ぜひお越しください。皆様のご来場、お待ちしております！

◆日時： 2026年4月26日(日)10:00～18:30 ※雨天決行予定

◆場所： 希望が丘商店街周辺

活動トピック①

【GREEN×EXPO 2027】何度も訪れたくなる博覧会へ

令和8年度の予算編成に向けて、GREEN×EXPO2027について取り扱い、各パートで要望を行いました。開催までいよいよ1年。前売りチケットも販売を開始しています。是非、旭区のみなさんにも期待をいただけるよう、更に盛り上げていきたいと思っています。

1．「誰もが参加できる」ボランティア環境の整備

ボランティア募集が始まっていますが、現在の募集案内では「誰でも参加できる」というメッセージが十分に伝わらず、年齢や障害の有無であきらめてしまう方が多いのではと指摘いたしました。現在の募集パンフレットの改善や、聴覚・視覚障害のある方が安心して楽しめる見学場所の情報発信の強化等、準備段階から当事者の皆さんと連携した環境づくりを求めました。

ボランティア募集は2026年4月30日(木)17時まで。奮って応募下さい！
URL：https://expo2027yokohama.or.jp/sponsorship/volunteer/

▲申し込みQRコード

2．未来を担う子どもたちへの「体験」と「学び」

市内満4歳～18歳までの子どもたちを対象とし「招待事業」が企画されています。市立学校に通っていれば、最大2回招待を受けることとなります。ただの見学に留まらず、地元横浜で開催される博覧会が、子どもたちの未来に繋がるような、かけがえのない学びの場となるよう要望しました。

3．「来場者輸送」と旭区のアクセス向上

大阪・関西万博との輸送の大きな違いは、鉄道が乗り入れないことだと思います。特に旭区内は開催地であるにも関わらずシャトルバス発着駅がないため、自転車での来場環境の整備や、地域で運行されているコミュニティバス等の会場ターミナル乗り入れ検討を要望しました。また、利便性向上のため、会場南東部への入場ゲート設置も併せて提案しました。（地元のボランティアバスを乗り入れをご希望される場合は、是非ご一報ください！）

活動トピック②

【支援策まとめ】物価高騰から市民の生活を守る

長引く物価高騰に対し、横浜市は、各種支援事業を順次実施していきます。

1. すべての市民・家計への直接支援

- **市民全員（19歳以上）への5,000円分給付**
  - 対象： 2026年1月時点で市内に在住する19歳以上の市民
  - 内容： 1人あたり5,000円相当の電子クーポンまたは商品券を給付
  - 時期： 2026年4月下旬以降、順次開始予定
- **商店街プレミアム付商品券の発行**
  - 市内の商店街で利用可能な、上乗せ（プレミアム）付きの電子商品券を発行し、地元での買い物を支援します。継続施策ではありますが、昨年より予算額が拡充されました。
  - 令和7年度は、鶴ヶ峰商店街協同組合、希望が丘商店会等でも実施されています。

2. 子育て世帯への重点支援

- **物価高対応子育て応援手当金**
  - 対象： 0歳から高校生年代までの子ども
  - 給付額： 子ども1人あたり 2万円
  - 支給日： 2026年3月10日より順次開始
  - 方法： 原則、児童手当の受給口座へ振り込み※申請不要
- **学校給食費の負担軽減**
  - 食材費の高騰分を市が補填することで、保護者負担を増やさず質の高い給食を維持。実質的負担軽減を継続します。

3. 低所得世帯への対応

- **【特例】証明書発行手数料の無料化**
  - 給付金申請に必要となる「課税（非課税）証明書」の発行手数料を、臨時措置として無料化しています。

活動トピック③

【報告】横浜市産後ケア事業が大きく拡充・改善されます！

これまで、多くの切実な声をいただいてきた「産後ケア事業」について、令和8年度から要望が反映され、大幅な制度改善が実現することとなりました。

1.「使いたい時に使える」予約システムの導入

これまでは区役所での対面申請が前提であり、心身が最も辛い産後1ヶ月の時期に、新生児を連れて外出する高いハードルがありました。

▶改善点: **区役所を通さず、施設へ直接予約が可能になります。**申請から利用までのギャップが解消されることが期待されます。

2. 利用要件の緩和と「レスパイト（休息）」の承認

「育児不安がある場合に限定」といった従来の要件を撤廃するよう求めてきました。

▶改善点: ショートステイ（宿泊型）においては、**お母さんのレスパイト（休息・リフレッシュ）目的での利用が可能になります。**利用ハードルが下がり、産後うつの抑制やお母さんの心と体のケアにも期待できます。

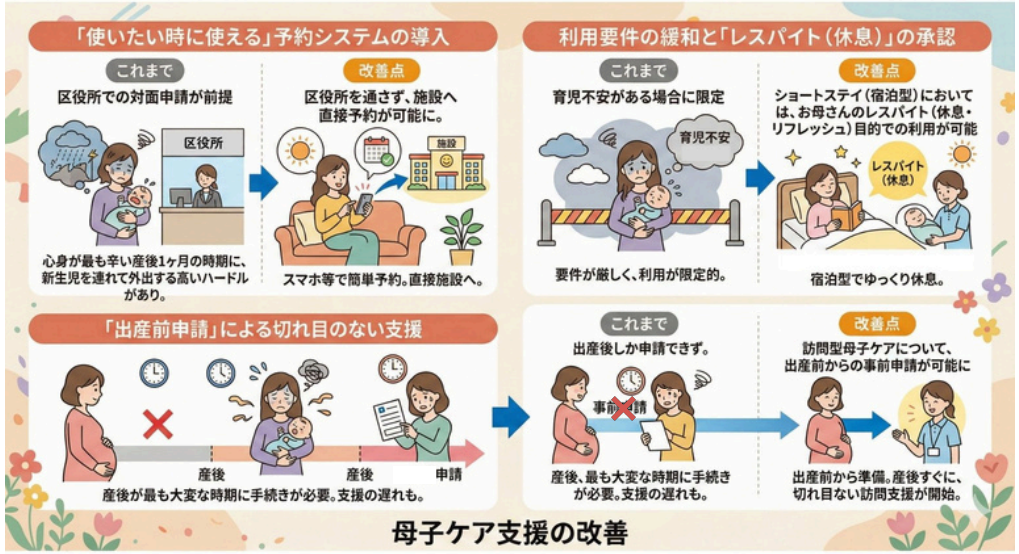
3.「出産前申請」による切れ目のない支援

産後の母乳ケアの悩みや、産後うつのリスク等は事前には予測しづらいものです。
いざ必要になった時に慌てず利用できる体制を提案してきました。

▶改善点: **訪問型母子ケアについて、出産前からの事前申請が可能になります。**
行政からの積極的な情報提供（プッシュ型通知）とあわせ、産直後から「誰でも・すぐに」助けを求められる環境が整います。

【今後の取り組み】

今回の改善に留まらず、パマトコを利用したオンラインでの迅速なアクセスを確保しつつ、必要に応じて対面でのきめ細やかな面談ができるハイブリッドな運用を働きかけてまいります。



活動トピック③

【GREEN×EXPO 2027】何度も訪れたくなる博覧会へ

令和8年度の予算編成に向けて、GREEN×EXPO2027について取り扱い、各パートで要望を行いました。

1．「誰もが参加できる」ボランティア環境の整備

ボランティア募集が始まっていますが、現在の募集案内では「誰でも参加できる」というメッセージが十分に伝わらず、年齢や障害の有無であきらめてしまう方が多いのではと指摘いたしました。現在の募集パンフレットの改善や、聴覚・視覚障害のある方が安心して楽しめる見学場所の情報提供の検討など、準備段階から当事者と連携した環境づくりを求めました。

ボランティア募集は2026年４月30日(木)17時まで。奮って応募下さい！
URL：https://expo2027yokohama.or.jp/sponsorship/volunteer/

▲申し込みQRコード

2．未来を担う子どもたちへの「体験」と「学び」

市内満4歳～18歳までの子どもたちを対象とし「招待事業」が企画されています。市立学校に通って入れば、最大2回招待を受けることとなります。ただの見学に留まらず、地元横浜で開催される博覧会が、子どもたちの未来に繋がるような、かけがえのない学びの場となるよう要望しました。

3．「来場者輸送」と旭区のアクセス向上

大阪・関西万博との輸送の大きな違いは、鉄道が乗り入れないことだと思います。特に旭区内は開催地であるにも関わらずシャトルバス発着駅がないため、自転車での来場環境の整備や、地域で運行されているコミュニティバス等の会場ターミナル乗り入れ検討を要望しました。また、利便性向上のため、会場南東部への入場ゲート設置も併せて提案しました。（地元のボランティアバスを乗り入れ検討されたい場合、是非ご一報ください！）

増永あやこ市政報告書

あさひ･つなぐ･レポート

2026年 春号
vol.008

令和8年度にむけた予算編成スタート ～次世代に誇れる横浜を～

息子とこども自然公園にて

麗らかな春の光が街を包み、命の息吹を感じる季節となりました。日頃より温かなご支援とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年の出産から半年が経ちました。初めての育児に日々奮闘する中、すくすくと育つ我が子の寝顔や、日に日に増える表情に、親としての喜びと同時にこの小さな命が生きる未来を守る責任の重さを肌身に染みて感じております。

この3月より、ようやく朝の駅頭活動を本格的に再開することができました。「おめでとう」「頑張ってね」と温かいお声をかけていただき、ありがとうございます。改めて地域の皆さまとの再会は、何物にも代えがたい私の原動力だと実感しています。暫くの間直接ご挨拶に伺えなかった分、また改めて皆さまお一人おひとりのもとへ足を運び、地域の生の声をお聞きしたいと決意を新たにしています。

現在、横浜市では令和8年度に向けた予算編成について議論が進んでいます。

来年に迫った「GREEN×EXPO 2027（国際園芸博覧会）」の成功は、本市の持続可能な発展において極めて重要な局面です。しかし、私たちが議論すべきは華やかなイベントだけではありません。少子高齢化、防災対策、そして地域経済の活性化など…山積する課題に対して実効性のある予算をどう組み立てるか。今、まさに真剣な議論が求められています。

私自身、夜泣きに悩み、仕事と育児の両立に葛藤する日々があるからこそ、市民の皆さまが抱える切実な悩みや、暮らしの中のあと一歩の支援の必要性が、今まで以上に鮮明に見えるようになったと感じます。一人の母親としての視点と、一人の議員として横浜市全体の視座、その両輪で、市民の皆さまの暮らしに徹底して寄り添っていきたいと思っています。

今号は主に、令和８年度予算案に対する市政トピックをまとめました。皆さまからのご意見・ご要望を政策へと繋げるべく、活動を進めてきました。ご一読いただければ幸いです。

イベント情報～希望が丘商店会「春フェス」出店します！

今年も「春フェス」が開催されます！豪華景品が当たる無料大抽選会や名物カートレース等、大人も子どもも楽しめる企画が満載です。
当日、増永あやこ事務所も出店予定。商店街の活気と笑顔に触れに、ぜひお越しください。皆様のご来場、お待ちしております！
◆日時： 2026年4月26日(日)10:00～18:30 ※雨天決行予定
◆場所： 希望が丘商店街周辺

活動トピック③

【GREEN×EXPO 2027】何度も訪れたくなる博覧会へ

令和8年度の予算編成に向けて、GREEN×EXPO2027について取り扱い、各パートで要望を行いました。

1．「誰もが参加できる」ボランティア環境の整備

ボランティア募集が始まっていますが、現在の募集案内では「誰でも参加できる」というメッセージが十分に伝わらず、年齢や障害の有無であきらめてしまう方が多いのではと指摘いたしました。現在の募集パンフレットの改善や、聴覚・視覚障害のある方が安心して楽しめる見学場所の情報提供の検討など、準備段階から当事者と連携した環境づくりを求めました。

ボランティア募集は2026年４月30日(木)17時まで。奮って応募下さい！
URL：https://expo2027yokohama.or.jp/sponsorship/volunteer/

▲申し込みQRコード

2．未来を担う子どもたちへの「体験」と「学び」

市内満4歳～18歳までの子どもたちを対象とし「招待事業」が企画されています。市立学校に通って入れば、最大2回招待を受けることとなります。ただの見学に留まらず、地元横浜で開催される博覧会が、子どもたちの未来に繋がるような、かけがえのない学びの場となるよう要望しました。

3．「来場者輸送」と旭区のアクセス向上

大阪・関西万博との輸送の大きな違いは、鉄道が乗り入れないことだと思います。特に旭区内は開催地であるにも関わらずシャトルバス発着駅がないため、自転車での来場環境の整備や、地域で運行されているコミュニティバス等の会場ターミナル乗り入れ検討を要望しました。また、利便性向上のため、会場南東部への入場ゲート設置も併せて提案しました。（地元のボランティアバスを乗り入れ検討されたい場合、是非ご一報ください！）

増永あやこ市政報告書

あさひ・つなぐ・レポート

2026年 春号 vol.008

令和8年度にむけた予算編成スタート ～次世代に誇れる横浜を～

息子とこども自然公園にて

麗らかな春の光が街を包み、命の息吹を感じる季節となりました。日頃より温かなご支援とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年の出産から半年が経ちました。初めての育児に日々奮闘する中、すくすくと育つ我が子の寝顔や、日に日に増える表情に、親としての喜びと同時に、この小さな命が生きる未来を守る責任の重さを肌身に染みて感じております。

この3月より、ようやく朝の駅頭活動を本格的に再開することができました。「おかえり」「頑張ってね」と温かいお声をかけていただき、ありがとうございます。改めて地域の皆さまとの再会は、何物にも代えがたい私の原動力だと実感しています。暫くの間直接ご挨拶に伺えなかった分、また改めて、皆さまお一人おひとりのもとへ足を運び、地域の生の声をお聞きしたいと決意を新たにしています。

現在、横浜市では令和8年度に向けた予算編成が始まっています。来年に迫った「GREEN×EXPO 2027（国際園芸博覧会）」の成功は、本市の持続可能な発展において極めて重要な局面です。

しかし、私たちが議論すべきは華やかなイベントだけではありません。少子高齢化、防災対策、そして地域経済の活性化など…山積する課題に対して実効性のある予算をどう組み立てるか。今、まさに真剣な議論が求められています。

私自身、まさに「子育て世代ど真ん中」の当事者です。夜泣きに悩み、仕事と育児の両立に葛藤する日々があるからこそ、市民の皆さまが抱える切実な悩みや、暮らしの中の「あと一歩」の支援の必要性が、今まで以上に鮮明に見えるようになりました。一人の母親としての視点と、一人の議員としての確かな議論。その両輪で、市民の皆さまの暮らしに徹底して寄り添い、横浜の未来を切り拓いてまいる所存です。

今号は主に、令和８年度予算案に対する市政トピックをまとめました。皆さまからのご意見・ご要望を政策へと繋げるべく活動を進めてきましたので、ご一読いただければ幸いです。